

横浜保育福祉専門学校 学校関係者評価委員会における指摘事項等

令和8年3月6日および5月21日、本校にて社会福祉法人施設長、県立高等学校校長、戸塚区区役所職員、地域住民代表、卒業生代表(保育士)よりそれぞれ1名、保育園園長2名、合計7名に委員として出席いただき、教職員9名と学校関係者評価委員会を実施した。指摘事項等は以下のとおり。

1. 学生募集について

- ・神奈川県内でも他県同様に短期大学の学生募集停止や保育士養成、幼児教育課程の廃止などが相次いでいるが、今後についてどう展望を持っているのか。子どもの人数も減り、保育士も減っている。そのような中、どうやって保育士を確保するかべきか悩んでいる。今の学生は何をみて(就職先を)選んでいるのか。一人でも多く卒業生を出していただけると幸いである。
- ・学校の募集停止もあり、希望する高校生全体は減っている。そのため、保育分野への興味喚起を重視している学校が多い。裾野を広げ、入口で高校生に興味を持ってもらい、最終地点が保育になると思う。進学先として大学を選ぶ方が増えており、さらに大学を卒業すると一般企業を選択する学生も多い。これにより保育分野に就業する母数がより減ってしまう現状があると考える。

2. 就職後の離職について

- ・保育士の確保も難しい中、国からの現場への要求は増えているが、対応はなかなか厳しい状態である。学生にずっと勤めていただける方法を模索しているが、実際には結婚や出産で職場を離れてしまうことが多い現状である。3～5年の間に結婚などで辞めていき、業界から去っていくことが多い。
- ・障害者施設等でも同様に国からの要望や義務的事項が増えている。これらへの対応と人手不足への対応も含め障害者施設でもICT活用を積極的に推進しようとしている。また、周辺施設では海外の人を職員として迎えているところが増えている。新たな人員を確保するのも課題だが、現在いる職員が辞めないように、どのように対応、育成していくかを考えることが優先になっている。
- ・就職した先輩と3年生の交流の機会を作った。趣味を楽しむために、仕事を頑張る、など本音がきけ、学生にも共感できる話だったようである。直ちに離職率抑制につながるわけではないが、まずはリアルな現状の理解とミスマッチを減らす一助になればと思う。

3. コミュニケーションの課題について

- ・学校からの報告を聞いて、保育園も同じ課題を抱えていると感じる。もちろん、コミュニケーションは現場では大変重要であるが、学校と現場では具体性が違う。そのため、保育園と学校教職員間での会議や学生が定期的に保育園で行っているインターンシップは、双方のコミュニケーションの重要性の理解につながると思われる。

- ・現場の保育士として、授業と一緒に参加し、学生が困っている場面をみて自分も学生時代を思い出した。逆に自分を見直すよい機会となった。特に2年生は、保育実習が複数あり大変だが、まずは行動してみることで開けることもあると思うのでそこを伝えていきたい。

4. その他

- ・本年度改修した保育ラボ（保育室を模した現場実習教室）は、学生だけでなく保育園側としてもよい取り組みだと考えている。授業でも一緒にできるのはよいと思っている。授業で使用しない時間帯は保育園でも積極的に活用させていただきたい。

以上